



相双支部ニュース

「懇談会、研修報告」 CONFERENCE & WORKSHOP REPORT

令和5年度 福島県看護協会相双支部「看護職責任者懇談会」

目的：地域包括ケアシステム推進のため、各施設の看護管理者と行政保健師とのネットワークづくりを行う

日時：令和5年8月31日(水) 13:30～15:30 **場所：**かしま交流センター

内容：1. 令和5年度 福島県看護協会の動き

公益社団法人福島県看護協会 会長 佐藤 博子様

2. 地域包括ケアシステムにおける退院調整ルール of 現状について
福島県相双保健事務所 社会福祉主事 新井田 尚生様

3. 意見交換

4. 地域の健康課題や今後の取り組みについて



今年度も対面で看護職責任者懇談会を開催することができました。各病院や老人保健施設、看護専門学校から22名の参加者が集まりました。初めに福島県看護協会佐藤会長より福島県看護協会の重点政策・重点事業、会員拡大に向けた取り組みについて報告がありました。その後、社会福祉主事の新井田様より講演をいただきました。令和4年度の相双医療圏内における退院調整ルールの運用状況に関するアンケート調査の説明があり、感染対策のために医療機関において面会制限に起因して、「要介護」「要支援」とともに退院前カンファレンスの開催が減っていることや退院調整漏れの削減に向けた取り組みなどが報告されました。参加者からは、退院調整に関する各施設の現状や問題点など質問や意見が活発に出され有意義な会になりました。地域住民の健康を守るため、行政と施設間の連携を深めていきたいと思いました。

令和5年度 第1回相双支部看護研修会

テーマ：「あなたが変える、認知症高齢者の意思決定支援」

講師：医療法人社団 はな 院長 原澤 慶太郎氏

日時：令和5年9月2日(土) 13:30～15:30

場所：音屋ホール



〈研修を受講して〉

医療法人伸裕会 渡辺病院 看護部 久田 実穂

今回の研修を通し、認知症患者とその家族の意思決定支援において、何が最善なのかを看護者が常に考えながら関わっていくことが重要であると感じました。また、認知症患者の意思決定支援において、患者本人の意思ではなく、介護者である家族の意思を優先していたのではないかと改めて考える機会になりました。患者本人の意思が形成・表明・実現されるために、看護師として、本人や家族に積極的に助言・提案をしていけるようにすることが求められ、相手の立場を尊重し対話することや認知症患者と時間をかけて関わっていくことが、患者の思いの表出にも繋がってくるのではないかと考えました。今後は、すぐに自己決定を迫るのではなく時間をかけながら関わり、本人の意思が日常生活や社会生活へ反映されるよう看護支援していきたいと思ひます。



「相双支部看護研究発表会」




NURSING RESEARCH PRESENTATION

日時：令和6年2月17日(土) 13:00～16:00 場所：音屋ホール Zoom 配信

講評：医療創生大学 看護学部教授 後藤 恭一 先生




第Ⅰ群

座長：医療法人伸裕会 渡辺病院 阿部 佐保

| 演 題・発表者 | 内 容 |
|---|---|
|  <p>患者サイドからの入院問診票の検討 ～入院時の患者・家族の負担を軽減するために～ 福島県厚生農業協同組合連合会 鹿島厚生病院 畑中 奈緒</p> | <p>A病院では外来での待ち時間を利用し、入院時の情報を入院問診票にて収集している。入院前の身体的・精神的に不安定な状態の患者・家族が問診票を読み解き、記入することは負担が大きいのではないかと考えたため患者・家族にアンケート調査を実施した。その結果、予約入院と緊急入院の患者・家族では問診票のとらえ方に違いがあることが分かった。そこで、緊急入院時には優先度の高い項目に絞った緊急入院問診票を作成した。</p> |
|  <p>妊産褥婦への介入による産後精神状態への影響 ～尺度を活用して～ 南相馬市立総合病院 立野 美穂</p> | <p>今回バースレビュー介入の有無が産後の精神状態に与える影響について検討した。その結果、出来事インパクト尺度の得点が、退院3ヶ月後に低下し、経時的な変化でも介入群にのみ有意な漸減が見られたことが明らかとなった。そのため、バースレビューは出産後のPTSD出現を低減させ、安定した育児を継続できる可能性が示唆された。しかしながら、バースレビューは一度では十分な効果が得られないという先行研究もあり、複数回のバースレビューによる効果の検討が必要であると考えられる。</p> |
|  <p>効果的な畜尿指導の実施 ～患者の行動変容を促す関わりを通して～ 医療法人相雲会 小野田病院 五賀 美穂</p> | <p>本研究は、泌尿器科の各検査における蓄尿指導を行うことで、スムーズな検査の進行、安心・安楽な看護の提供が出来ることを目的とする。A病院、泌尿器科外来の検査予定患者70名に対し、質問紙を用いた聞き取り調査を実施し、半数以上の患者が蓄尿に関して理解していない状況だった。そのため、口頭のみでの説明だけでなく、患者へ蓄尿の根拠などを記載した説明用紙を配布しポスターを掲載することで、患者の蓄尿率が向上し、行動変容に繋げる事ができた。多くの患者が蓄尿が出来たことで、スムーズに検査を進めることが出来た。</p> |




第Ⅱ群

座長：鹿島厚生病院 羽根田 民子

| 演 題・発表者 | 内 容 |
|---|---|
|  <p>看護における気づきの授業 ～臨床判断の授業を通して～ 相馬看護専門学校 新妻 美弥子</p> | <p>A看護専門学校では、カリキュラム改正に基づき臨床判断の授業を1年次～3年次までに段階を踏みながら実施している。今回は1年次の臨床判断I(「気づき」のトレーニング)の授業を振りかえり、教育的示唆を得た。「気づき」を促すためにはコンテキストである知識や経験を教員が引き出し、看護としての「気づき」をつなげていく必要がある。また学生の特性を踏まえて視覚動画を活用した授業展開は「気づき」を促す方法として効果的であった。さらに基礎教育での知識の積み重ねと臨床での経験が積み重なり知識と経験が融合され「気づく」力が育成されると考える。</p> |
|  <p>新人職員を育てるための指導方法を比較して ～自分で学び、成長する力を育てる～ 医療法人伸裕会 渡辺病院 鈴木 英理香</p> | <p>当院では今年度より新人指導の方法を指導者主体から新人主体へ変更した。YWTシートを導入し新人主体の指導を行ったことで、新人指導者が互いの成長における課題を明らかにすることができ、課題達成に向けての指導者のサポート力向上及び新人の理解力向上と自信に繋がった結果を得ることができた。しかし新人の記録負担や指導者が指導の進捗状況を把握できない課題が残り、来年度はシート内容を改善し、より効率的な指導に繋げていきたい。</p> |
|  <p>セルフケア能力の向上を目指したしくみづくり ～待ち時間を利用した糖尿病フリー教室を開催して～ 医療法人社団茶畑会 相馬中央病院 堀内 由美</p> | <p>糖尿病患者のセルフケア能力の維持・向上は重要である。そこでコメディカルと共にフリー教室を開催した。講座毎のブースに、患者48名は自己が希望する講座を受講した。最も多かったのは『食事療法』で25名であった。スタッフ評価は「他職種の理解」や「組織力の強化につながった」などがあげられた。また、患者会の会員の増加も図られた。フリー教室は糖尿病患者のセルフケア能力の向上にむけた支援として、継続的なサポート体制の構築につながった。</p> |

第Ⅲ群

座長：相馬中央病院 但野 和子

| 演 題 ・ 発 表 者 | 内 容 |
|---|---|
|  <p>時間外勤務削減への取り組み ～時間外勤務に対する 看護師の意識調査から～ 医療法人社団青空会 大町病院 松田 若奈</p> | <p>A病棟では時間外勤務が多く発生しているため、時間外勤務に関連する認識および要因を明らかにし時間外勤務削減することを目的とした。早番・遅番導入とチーム編成を実施後、質問紙調査でスタッフの意識について調査を行った。その結果、業務改善が55.2分の時間外勤務の削減に繋がり、時間外勤務はスタッフにとって負担となっていること、またスタッフは業務改善について意欲があることがわかったため報告する。</p> |
|  <p>身体拘束予防ガイドラインを活用したせん妄患者との関わり 公立相馬総合病院 渡部 侑希</p> | <p>せん妄は、加齢による認知機能低下に加えてストレス環境が要因となり、不適応反応が起こる状態である。看護師によるせん妄患者への対応は様々であり、身体拘束が必要とされる場合もあるが、身体拘束はせん妄の悪化や患者の機能低下を招く恐れがある。身体拘束を回避するために、身体拘束予防ガイドラインを用いた予防的なケアと対応を行った結果、排泄や睡眠など基本的ニーズの充足が、せん妄悪化の予防に重要なことが分かった。</p> |
|  <p>間質性肺炎の症状の再燃・寛解を繰り返す患者との関わりについて ～ペロウの看護理論を活用して～ 公立相馬総合病院 安倍 亜姫</p> | <p>間質性肺炎の再燃と寛解を繰り返し、強い不安の訴えがあった患者との関わりについてペロウの看護理論を用いて振り返りを行った。患者のニードを汲み取りながら関わったことで信頼関係を構築することができ、その患者に合った質の高い看護を提供することができた。患者の発言や行動に隠されたニードに耳を傾け、ともに治療過程を歩むパートナーとしての役割を担うことができるよう、今後も信頼関係を大切にしたい関わりを継続していきたい。</p> |



寄稿

相双支部看護研究発表会の解説と未来の看護

医療創生大学 看護学部教授
相馬看護専門学校 非常勤講師
後藤 恭一 先生

看護研究は、良い看護を提供するために、看護の事象(現象)の基盤となる知識や理論を形成し、既存の看護学に新たに付加価値を加えていくものです。2024年2月17日に開催された相双支部看護研究発表会では、9件のエビデンスレベルが高い成果が発表され、直ぐに実践可能な看護学が凝縮されていました。

I部第1席(以下、I-1と記す)とⅢ-1は、医療の質や安全性を向上させるためのマネジメントサイクルであるPDCAサイクル(PDCA cycle)を研究の基盤として導入し、患者の負担減と業務改善に結びつけようとする内容となっていました。I-2、I-3は、エビデンスレベルが高い介入研究を実施し、介入の効果を見出し、実践の場での効果が期待できる内容でした。Ⅱ-1、Ⅱ-2とⅡ-3は、教育の向上への取り組みが報告され、Ⅱ-1は「気づき」が重要であること、Ⅱ-2では、Y(やったこと)、W(わかったこと)、T(次にやること)シートの活用が効果的な指導につながることで、Ⅱ-3は糖尿病フリー教室の実施がセルフケア能力の向上の動機付けになることが報告されました。Ⅲ-2、Ⅲ-3はAIテキストマイニングを活用して、Ⅲ-2は急性期と回復期では感情に違いがあることが、Ⅲ-3は看護師の関わりが患者さんにポジティブな感情を与えることが報告されました。これらは、看護の古典的なナラティブ(物語)研究ですが、そこにAIを加えた、まさに新たな看護研究のドアが開いた瞬間に私たちは触れたのです。まだまだ解説したいところですが、紙面の関係上お許しください。

「看護の出前講座」 DELIVERY LECTURE

福島県看護協会は、福島県の委託を受け、医療職種の魅力発信事業「看護の出前講座」を実施しています。依頼を受けて、公立相馬総合病院看護師2名が相馬市立磯部中学校に訪問しました。対象は3年生12名です。

看護師の資格を取るための道筋などの講義を行い、手指消毒チェッカーを用いた演習と、聴診器を用いて心音や呼吸音聴取を体験してもらいました。手指衛生で洗い残しがあることに驚きや笑いがあり、汚れがしっかり落ちることも可視化することで素直に「凄い」と表現されていました。聴診器では当てる場所によって音の違いがあることに驚き、異常音について実際の音を聞いた際「こんなに違うのか」と驚嘆していたことが非常に印象的でした。

授業後に医療職に興味を持った生徒もおり、出前講座を実施した甲斐があったと感じています。

(公立相馬総合病院 化学療法認定看護師 佐々木 達也、看護師 引地 愛)



第54回(2023年度)日本看護学会学術集会

看護学生7名と日本看護協会会長による学生企画への参加報告

令和5年9月23日(土)に相馬看護専門学校3年 佐藤大稀さんが「看護の未来を創る～私の目指す看護師像」というテーマで基礎教育を通して得られた学びと目指す看護師像などを発表し、全国の養成機関の看護学生と意見交換をしました。この内容は、11月27日～12月27日までオンデマンドで配信されました。

〈発表会に参加して〉

相馬看護専門学校3年 佐藤 大稀

(令和6年4月より公立相馬総合病院就職予定)

この発表を通して、私は、自分の住む地域の特色や課題について改めて考えることができました。また、これまでの自分の人生経験や看護学校での学びを振り返ることができました。その上で自分が看護師としてどうありたいかを考えることは、直接将来へと繋がる大事な作業ではないかと考えました。そして、他の地域の学生との意見交換も行えたことで、様々な視点で看護を深く考える経験となりました。

今回、このような貴重な機会に参加させて頂けたことにとても感謝致します。



編集 後記

今年度も2回の支部ニュースを発行することが出来ました。紙面作成に当たりご協力頂いた皆様には、深く感謝いたします。今後も会員の皆様のお役に立てる情報を発信していけるよう努めて参ります。今後とも広報委員会をよろしくお願い致します。

広報活動委員：中田邦子、川上久美子、井上英子、高村めぐみ、久米本江里